

第17回日本IVF学会

2014.09.13-14、大阪

胚培養士による個別相談（たまご相談室）を行って

大住 哉子 佐藤 学 中岡 義晴 森本 義晴

IVF なんばクリニック

【目的】当院では、体外受精を実施した患者、もしくはこれから体外受精を行う患者に対して胚培養士から卵子、精子、胚に関する説明を直接受ける事ができるたまご相談室を週一回（二枠）、無料で実施している。この相談室を通して、相談を希望する患者の背景や患者からの質問内容、またアンケートにより相談室の満足度を調査した。

【対象・方法】2012年1月から2014年3月までにたまご相談室を訪れた患者113人（135回）を対象とした。たまご相談室予約時、患者に質問用紙を配布し、相談日前日までに質問事項を記入し提出していただくようお願いした。相談可能な胚培養士は日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士資格取得者で、相談時間は30分間とした。相談室終了後、アンケートに協力いただき、回収率は94.1%であった。

【結果】たまご相談室の予約占有率は60.3%で、この期間中に複数回利用した人は16.8%であった。たまご相談室を利用した患者平均年齢は38.5歳（27-49歳）で、年齢別の割合は、30歳未満4.4%、30～39歳50.4%、40歳以上45.2%であった。これは当院での2013年胚移植実施者平均年齢の38.2歳、年齢別の割合30歳未満3.3%、30～39歳54.7%、40歳以上41.6%とほぼ同等であった。相談室利用時点での当院での採卵実施平均回数は3.4回（0-15回）、で64.4%が採卵3回目までに相談室へ来室していた。また、胚移植平均回数は1.8回（0-9回）であり、今後胚移植を行う予定の胚移植0回目の患者が一番多く28.9%で74.8%が胚移植2回目までに来室していた。多かった質問内容は、順に1.卵子、2.胚のグレード、3.凍結胚（移植）、4.今後の治療へのアドバイス、5.胚盤胞（移植）、6.高齢、7.精子についてであった。アンケート調査より、95.3%が培養士の説明は分かりやすかったと回答し、92.9%が培養士の説明は納得できたと回答していた。再度利用したいと回答したのは86.6%であった。

【考察】事前に配布する質問用紙により、相談担当胚培養士は患者の体外受精における興味の対象や不安要素を十分把握でき、必要に応じてデータを収集し、適切な回答をスムーズに行うことができた。90%以上の患者が培養士の説明が分かりやすく、納得できたと回答していることよりたまご相談室は診察での医師の説明を補足し、患者の不安や疑問を取り除くための情報提供の場として有益であり、今後も継続して続けていく必要はあると考えられる。そのために胚培養士は、常に患者に最新の情報提供ができるよう、体外受精におけるデータの収集、分析のほか知識向上のために学会参加や勉強会の開催が不可欠である。